

小動物の肝疾患等におけるニカショウの有効性について

左向敏紀 1)、谷口孝 2)、芝常照 3)、久山昌之 4)、山内一男 5)、
栗本善平 6)、太田亮 7)、長谷川承 8)、本庄健男 9)、奈良隆之 10)、水谷尚 1)、廣瀬昶 1)

1) 日本獣医生命科学大学、2) アニマルメディカルクリニック、3) 芝動物病院、
4) 久山獣医科病院、5) 山内アニマルセンター、6) 栗本動物病院、7) やよい動物病院、
8) アルマ動物病院、9) ヒマラヤン動物病院、10) 奈良獣医科病院

荷花掌 *Echevaria glauca* は景天科の常緑肉質の植物であり、中国最南部の広西バーマヤオ族自治県の中心よりさらに奥地の険しい山奥の岩肌にのみ自生している。なお、この地は太古の昔は海底にあったため、土質も大量のミネラルが含まれている。この荷花掌から有効エキスを抽出した動物用サプリメントである「Nikasyou Herb」を使用した。

荷花掌は糖尿病犬を用いた実験により、投与することによりインスリン投与量の減量とともに肝機能の改善が認められた[1]。このため、今回は肝機能障害を疑う症例、肝臓比護を目的とした症例に対し、「Nikasyou Herb」を投与しその効果について検討した。

【材料および方法】投与試験は犬と猫で行った。犬症例は、肝炎、肝障害、胆泥症、胆嚢炎、副腎皮質機能亢進症と診断された犬 25 例で、肝酵素の上昇を認めるか、肝臓保護の目的に投与された。猫症例は、糖尿病、口内炎、肝障害を疑う 11 症例で軽度から中等度の ALT 上昇を認められたものである。

投与量は、体重 10kg に対して、「Nikasyou Herb」を 1 包とした。投与期間は 4 週間とし出来る限り、2 週間後および 4 週間後に採血を行い、血液検査を行った。一部の症例で長期投与による観察も行った。検査項目は、ALT、AST、ALP、血糖値、総コレステロール、トリグリセライドとした。

【結果】試験開始時点の犬症例の肝酵素はばらつきが大きかった。投与前の ALT が 85IU 以上の症例における平均値では、ALT で投与前値が 328.1 から 2 週間後 102.4、4 週間後 94.8 と低下した。AST では、投与前値が 68.7 から 2 週間後 33.9、4 週間後 34.9 と低下した。猫においても同様の低下が認められた。ALP には一定の変化が認められなかった。ALT の低下しにくい副腎皮質機能亢進症でも長期投与により ALT の低下が認められた。

【考察】犬猫において ALT、AST の上昇している症例では、「Nikasyou Herb」が肝障害の軽減に有効と考えられた。

1) 左向敏紀、水谷尚、流石真美子、廣瀬昶. 糖尿病犬の血中グルコース濃度コントロールに対する荷花掌の効果. 獣医東洋医学会誌 8, 1-4 (2002)